
窮屈なこの国。

玉椿 寿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

窮屈なこの国。

【Nコード】

N8919Y

【作者名】

玉椿 寿

【あらすじ】

窮屈だ。早くこの国を出たい。

彼女に会うまでの俺は、本当に小さな人間だった。

窮屈だ。

この国ほど窮屈な国はない。

心の小さな人間ばかりが集まって 傷をなめあっている。
しかし、そんなこといったって僕もその国民の一人だ。

*

僕はとりあえずこの国を出たいという思いで生きてきた。
いつからだろう、中学で奇抜な考えばかりしていたのを、
変人扱いされてからだろうか。

二十歳になった今でも思っている。
だが事実、一度も海外へ行ったことはなかった。

その日は、桜が咲いていた。

しかし僕はこの国を出ることだけを考えて歩いていた。
上なんか見るはずもない。

そんなとき彼女にぶつかった。

ドン

「わわっ」

ハッとなった。

僕はどこを歩いているかもわからないほど考えていたのだ。

「す、スイマセン・・・」

彼女がよろけてこけそうだったので、あわてて腕をつかんで姿勢を整えさせた。

「あ、ありがとうございます」
見たこともない子だった。

あたりまえだ。大学なんか何百人の生徒がいるのだ。
全員の顔と名前を覚えるくらいなら英単語を一つ覚える。

僕はそういう人間だったから。所詮この国の人間たちと同じ、
小さい人間だ。

「さ、桜が綺麗ですねえっ」

彼女はやけに無邪気で、そして楽しそうな声で言った。

「え？」

「桜です。ほら、上！」

反射的に上を見る。

まるで流星群のごとく、
降り注ぐ雨のごとく

桜は僕の上空を踊っていた。

「ああ……。」

彼女は僕より20cmくらい小さいから一生懸命に上を見ている。

「わ、私が見ていたからぶつかってしまっ……」

それはちがう、僕が変な……とてもくだらないことを考えていたから……。

「でも、下を向いて歩いていたでしょう？上を見たらこんなに綺麗なものがあるって気付かなかったですね、じゃあぶつかったのにも意味があったかなあ。」

「ええ…僕はとてくだらないことを考えていたのか、と思いました。この桜を見たらもう僕らの考えなんてちっぽけで…」

すると彼女は一瞬驚いた顔をして、次はすっかりうなずいて言った。

「この景色、見せられて良かったです。」

「ええ、僕も見せてもらってとてもよかったです。」

それから僕は少しだけ話をした。

僕はこの国について彼女に話した。

すると彼女はふふつと笑って言った。

「でも、この景色。ここの国じゃなきゃ見れません。桜は、この国にしかありませんから。」

「そう…ですね。」

「私が、あなたと出逢えたのもこの桜の木があったからです」

「…はい」

僕はすっかり彼女のトリコだった。

もう、この窮屈な国についてなんて悩むのももったいないと思った。この国にも、いいところがあるじゃないか。

そう、君と同じ名前の「桜」が見れるのはこの国だけなんだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8919y/>

窮屈なこの国。

2011年11月26日21時53分発行